

日本人造真珠硝子細貨工業組合が ビジョンを策定

日本人造真珠硝子細貨工業組合（井阪浩明理事長）では、平成26年度大阪府組合等事業向上支援事業「ビジョン・中期計画作成支援」を活用して、本ビジョン策定に至りました。

1. 人造真珠産業の現状

- 人造真珠産業は、真珠の代替物を製造する産業である。原玉（げんだま）と呼ばれる球形の被塗布物に塗装加工して、真珠様の人造真珠を製造する。
- 和泉市の人造真珠は全国シェアの80%以上を占めている。
- かつては輸出産業であったが、グローバルな価格競争の中で輸出量は減少している。
- 輸出量の減少に伴い、国内での小ロット、短納期対応が求められる受注にシフトしている。
- 高級品と輸出用の低価格品では、塗り回数、留意度などが異なり、製品の棲み分けがされている。
- 生産品目は固定的（定番品のみ）であり、提案できる要素は少ない。発注の意志決定は、値段と納期によってなされることが多い。
- 生産形態としては、受注生産であり、企画機能は持

っていない。

- 用途としては、アクセサリ用パーツとボタン等の服飾資材に大別される。ほかには、数珠、デコパール等の用途も存在する。

〈用途別特性〉

用途	アクセサリ用	服飾資材
規格	8ミリ以上	6ミリ以下
顧客要求	品質>価格	品質<価格
必要な特性		洗濯堅牢度が要求される
市場規模		

- 事業内容としては以下の3形態がある。
 - アクセサリ部品製造
 - アクセサリ部品仕入・アクセサリ製造（OEM）
 - 一貫製造（OEM）

2. ガラス細工産業の現状

- ガラス細工産業は、ガラス細工用の原料である棒生地を製造する原料メーカーと、ガラス細工を製造するメーカーで構成される。
- 軟質のガラス原料から棒生地を製造し、棒生地からガラス細工を製造している。ガラス細工製造は、職人による手作業である。
- ガラス細工に携わる職人の数は減少している。業界では、教室を通じて職人を育成するなどの取り組みをしているが、販売場所が限られることから、職人が自立していくには困難がある。なお、職人が立ちあがるまでに10年程度が必要である。

- ガラス細工製造者としては個人事業者も多い。
- ガラス細工の内訳としては、置物が6割、トンボ玉などの玉が4割である。玉には、古墳等の埋蔵物の複製品などがある。
- 当組合の構成企業で製造されたガラス細工は、小樽や長崎、また仲卸経由で長浜の土産物店で販売され、観光地の土産産業を支えている。
- ガラス細工の置物への消費者の反応は、「温かみを感じる」「可愛い」との意見が中心で、癒しを求める層に購入されている。一方で、震災を機に「割れるもの」という見方がされるようになっている。

3. 組合の課題

【組合員企業の経営課題】

- 円安による原材料コストの上昇が経営課題となっている。
 - 人造真珠の原玉は中国産であり、円安で値上がりしている。
 - パールエッセンスも輸入している。3割程度（1,000円程度/kg）、値上がりしている。
- 海外製品との価格差の正当性を訴求できていない。
 - 人造真珠はOEM中心であるので、どこで作られているものなのか、一般には知られていない。値段を見て高いと言われる。海外製品との違いを訴

求する必要がある。

- 価格への納得感のためには、日本産であることの安心感を訴求する必要がある。具体的には、和泉市が産地であることを広く周知していくことが必要である。

【組合活動上の課題】

- 年間運営してアンテナショップの売上が低下傾向にある。
 - 年間催事に合わせたテーマ設定で、継続的な需要喚起を図る必要がある。（クリスマス、フォーマルなど）
 - 統一的な店舗運営で訴求力を高める必要がある。

4. 組合の内外環境から見る今後の方向性

組合の内外環境から見る今後の方向性は以下の通りである。

区分	【強み】	【弱み・課題】
【機会】 ・和泉市が観光客誘致を推進している。 ・観光エリアとして注目されている。 ・人造真珠アクセサリーが和泉市ふるさと納税の産品とされている。 ・コットンパール流行によって人造真珠がトレンドと認知されかけている。	・和泉市の地場産業である。 ・各メンバーが役所などに顔が広い。 ・建物・ショップを保有している。 ・見学の受入実績がある。	・和泉市が産地であることが一般には知られていない。 ・海外品との違いが認識されていない。
【脅威】 ・人造真珠は海外品との価格競争になっている。 ・人造真珠は素材産業としての維持が困難になっている。	和泉市の地場産業として、 観光客受け入れを推進し、人造真珠・ガラス細工のイメージアップ を図っていく。 和泉市の地場産業としての観光客受け入れを通じて、 和泉市が産地であることを広くアピール していく。 和泉市の地場産業であることのアピールを通じて、 国産の安心感・価値感を訴求し、海外品との価格競争を回避 する。	

5. 今後の活動の方向性

今後の方向性：人造真珠・ガラス細工について、**和泉市の地場産業としてのイメージ作り**をすることによって、日本産であることの安心感や価値観を感じてもらえるように取り組んでいく。

方向性具体化の：以下の条件を満たす施策であることが望ましい。

- ための前提条件
- ・人造真珠・ガラス細工について多くの人に興味を持ってもらえ、プラスのイメージ作りが行える内容であること。
 - ・多額の投資・費用を必要としないこと。
 - ・組合員企業の納得を得られる内容であること。

具体的な施策：組合の建物を「和泉ガラス&パール館」(仮称) とすることで、和泉市の観光ポイントとしていく。具体的には、日帰りツアーや小中学生の修学旅行等での立ち寄りポイントとすることで、人造真珠・ガラス細工が和泉市の地場産業であることを広く訴求すると同時に、**人造真珠・ガラス細工についてのプラスの体験価値を蓄積**してもらい、**和泉市の人造真珠・ガラス細工のファンづくり**を行っていく。

組合員企業の収益の場としての、一階のアンテナショップは継続運営する。ただし、「和泉市の人造真珠・ガラス細工のファンづくり」という観点から、運営方法については一部の見直しを検討する。

6. 今後の価値創造プロセス

前項に記載した今後の活動によって、**和泉市の地場産業としての人造真珠・ガラス細工の認知度向上と高価値化**を図り、それによって、人造真珠・ガラス細工業界が振興し、活性化されることを目指すものとする。

